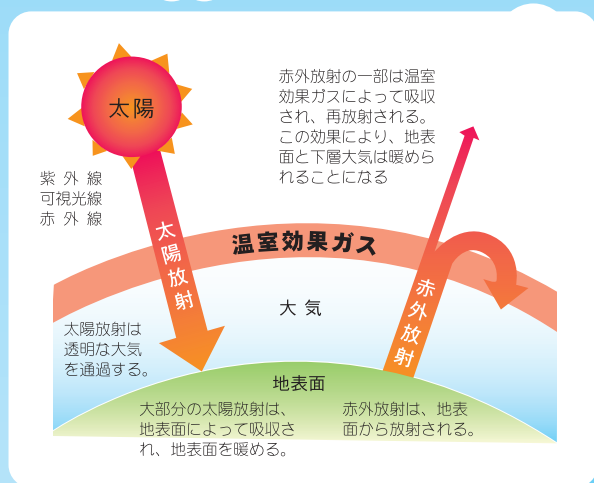


地球温暖化問題とは

地球に降り注いでいる太陽放射エネルギーは、直接的に大気を暖めるのではなく、大気を通過して地表面に到達し、地表面を暖めています。

暖められた地表面からは、赤外線が宇宙空間に向けて放射され、その一部が二酸化炭素などの温室効果ガスによって吸収、再放射されることで大気が暖められます。このことを温室効果と言います。

温室効果ガスである二酸化炭素は、植物や海に吸収・固定されることで、地球全体でバランスがとれ、一定の濃度（280ppm）が保たれてきた結果、地球の平均気温は、これまで人間をはじめ生物の生息に適する 15℃前後に保たれてきました。しかし、1750 年頃に始まった産業革命以来、石油や石炭などの化石燃料の大量消費などにより、大量の二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に排出されるようになり、近年、大気中の二酸化炭素濃度は急増（370ppm）し、温室効果が強まり気温の上昇が続いています。



地球温暖化の影響

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の第3次報告書（2001年3月）によると、今後、地球温暖化対策が進まないと仮定すると、2100年の地球の平均気温は 1.4 ～ 5.8℃上昇し、平均海水面も 9 ～ 88cm上昇すると予測されています。

これまでの影響

- 20 世紀中に地球の平均気温は $0.6 \pm 0.2^{\circ}\text{C}$ 上昇
- 平均海面水位は 10 ～ 20cm 上昇
- 大気中の二酸化炭素濃度は、産業革命の頃の 1750 年から 2000 年までに約 30% 増加

地球温暖化対策の目標は、人為的な気候変動を及ぼさない範囲で二酸化炭素の濃度を安定化（一定化）させることにあり、そのためには、現在の排出量を 50 ～ 80% 削減する必要があると言われています。

仮に 50% 削減できたとしても、大気中の二酸化炭素濃度は上昇し続け、濃度が安定化するまでには 375 年かかり、地球の平均気温も、現在より平均で 6℃ 上昇すると予測されています。

また、独立行政法人国立環境研究所などが約 100 年後の日本の夏の気候予測を行った結果では、夏の平均気温は 3.0 ～ 4.2℃ 上昇、降雨量は 17 ～ 19% 増加、真夏日（日最高気温が 30℃ 以上）は 50 日から 120 日に増加すると予測されています。

温室効果ガス排出の実態

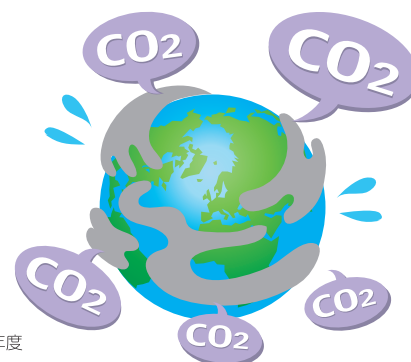
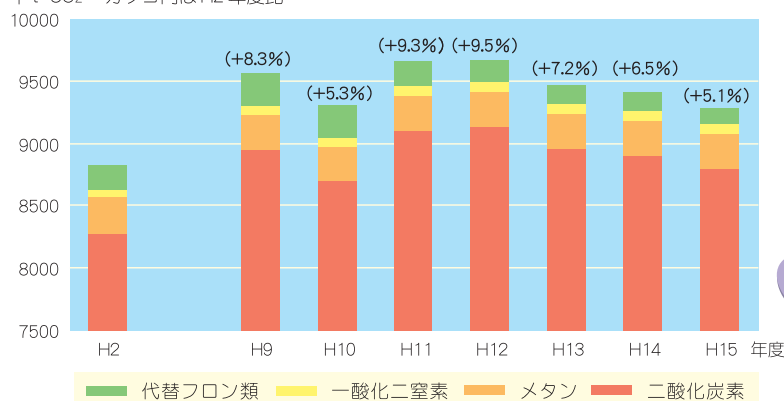
本県の平成15年度の温室効果ガス排出量は928万5千トンで、全国の排出量（13億3,900万トン）の約0.7%となっています。また、世界全体の排出量（約240億トン）の約0.04%を占めており、世界全体を1万人、2,500世帯の町と仮定すると、福井県は4人（1世帯）分の温室効果ガスを排出していると言えます。

温室効果ガスの排出量は、平成12年度まで増加傾向を示し、その後減少していますが、平成2年度の排出量（881万3千トン）に比べて5.1%増加しています。

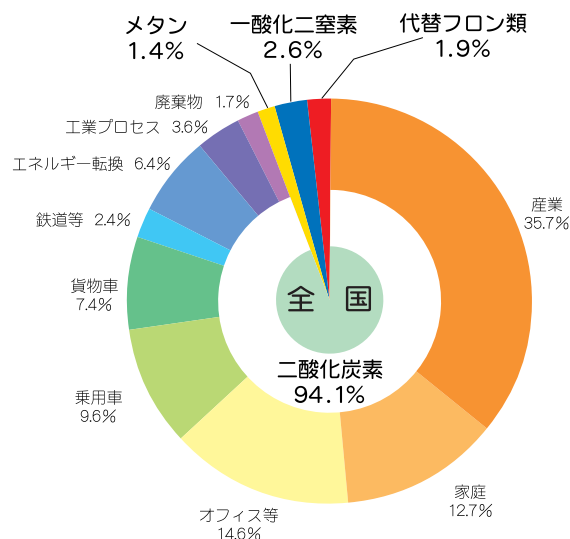
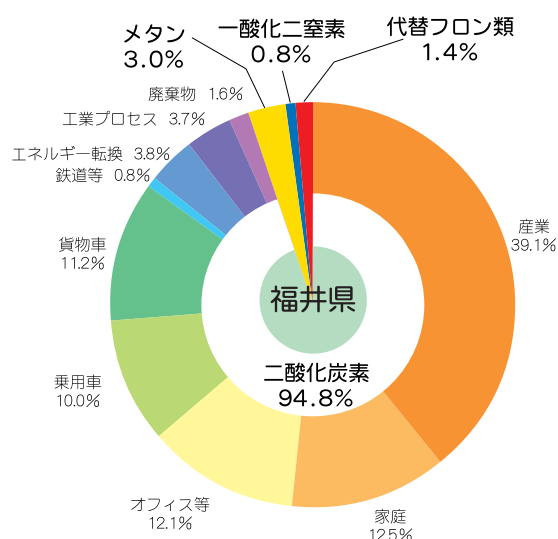
なお、温室効果ガスのうち94.8%が二酸化炭素であり、全国の二酸化炭素の占める割合（94.1%）と同程度となっています。

福井県の温室効果ガス排出量の推移

千t-CO₂ カッコ内はH2年度比



福井県と全国の温室効果ガスの種類別・分野別内訳(平成15年度)



削減目標

平成22年度(2010年度)の温室効果ガス排出量を
平成2年度(1990年度)に比べて3.0%削減する。

主要分野の目標

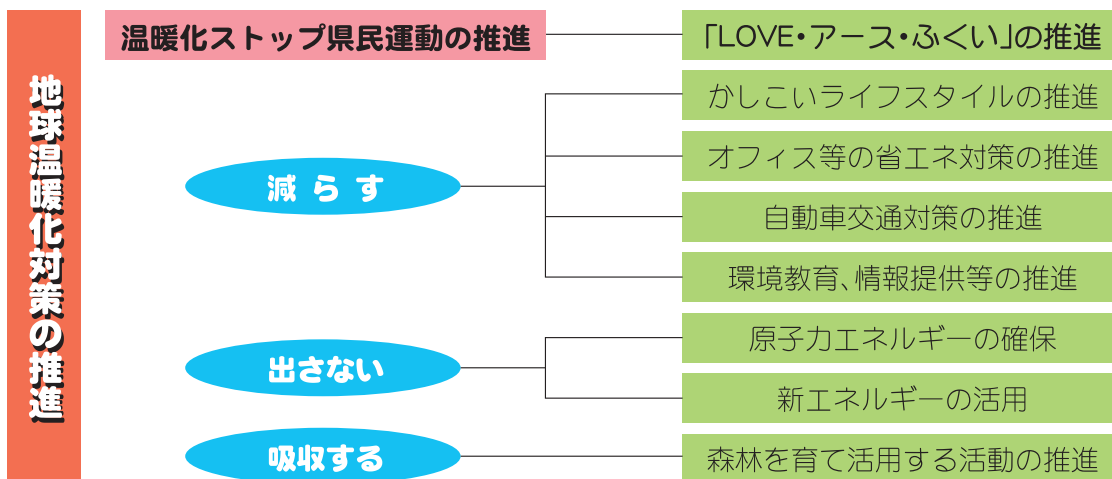
産 業	業：20%削減する	オフィス等：32%増に抑える
	庭：9%増に抑える	自動車等：32%増に抑える

※目標達成のためには、県民のエコライフ活動や、事業者のエコオフィス活動など身近な取組みが前提となります。



排出削減に向けて

施策の体系



減らす

大量に消費しているエネルギーの使用量そのものを削減し、温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素の排出を減らす。

出さない

エネルギーを製造する過程において、二酸化炭素を排出しない原子力発電や太陽光エネルギー、バイオマスエネルギー、地中熱エネルギーなどの新エネルギーの導入を進める。

吸収する

二酸化炭素を吸収・固定してくれる森林を計画的に整備し、持続的な二酸化炭素の吸収につなげる。

目標達成のために

県民の取組み

家庭や地域における省エネ等の活動

- 家庭において、節電や節水等の省エネ活動を実施し、無駄をなくした生活をする。
- 地域での環境保全の実践活動やイベント等に参加する。

家計の節約につながる省エネ型製品の選択

- 省エネ型製品は、購入時には一般的に高価であるが、使用時のエネルギーコストも考えて、結果的に家計の節約につながる省エネ型製品を購入する。

環境にやさしい住まいづくり

- 天井や壁などに断熱材を使用したり、窓ガラスを複層ガラスにするなど、住宅構造を省エネルギーに優れたものにする。
- 太陽光発電設備や太陽熱温水設備を設置するなど、できるだけ二酸化炭素を出さないエネルギーを使う。
- 家の周りを木や花で緑豊かにする。

環境にやさしい移動手段の利用

- 自家用車の購入時には、低公害車や低燃費車を選ぶ。また、使用状況に応じて小型車など適正な大きさの車を選ぶ。
- アイドリングストップや経済速度（安全速度）での運転などエコドライブを実行する。
- 近くの用事などは、健康にもつながる徒歩や自転車を利用する。
- 公共交通機関を利用できる環境にある人は、公共交通機関を利用する。

事業者の取組み

オフィス等における身近な省エネ対策の実施

- オフィス等において、節電や節水等の省エネ活動を実施する。
- クールビズ（冷房温度 28℃以上）、ウォームビズ（暖房温度 20℃以下）を実施する。

省エネ診断等によるエネルギー管理の徹底

- 省エネ法の対象事業者は省エネ法に基づくエネルギー管理を徹底する。
- 省エネ診断やESCO 事業を活用し、効果的なエネルギー対策を実施する。
- ISO14001 やエコアクション 21 などの環境マネジメントシステムを構築・運用する。

太陽光発電設備導入など新エネルギーの活用

- 天然ガスコージェネシステムの導入や太陽光発電設備などの新エネルギーの活用を進める。

自動車対策の徹底

- 低公害車や低燃費車の社用車への導入を進める。
- 運送事業者は、「グリーン経営認証」を取得し、エコドライブなど環境負荷の少ない運送事業に取り組む。
- 従業員に対して、公共交通機関の利用や自転車通勤を推奨する。

適切な情報提供

- 家電製品の販売事業者等は、コスト面も含めた省エネ効率など、購入の判断材料となる適切な情報を消費者に提供する。
- 住宅関係者等は、建築主に対し、住宅の省エネ性能等について適切な情報を提供する。

地球温暖化防止のために私たちができること

エコライフは家計の節約

冷暖房温度を過度に設定しない

冷房温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定すると

年間 二酸化炭素：約31kgの削減
電気使用量：約87kWhの削減
電気代：約2,000円の節約

冷暖房機器と照明の利用時間を短くする

利用時間をそれぞれ1時間減らすと

年間 二酸化炭素：約80kgの削減
電気使用量：約220kWhの削減
電気代：約4,800円の節約

テレビをつけっぱなしにしない

テレビをつけている時間を1日1時間減らすと

年間 二酸化炭素：約13kgの削減
電気使用量：約43kWhの削減
電気代：約1,000円の節約

家電製品のコンセントをこまめに抜く

待機電力を90%減らすと

年間 二酸化炭素：約87kgの削減
電気使用量：約260kWhの削減
電気代：約5,600円の節約

シャワーの使用時間を減らす

1日1分4人家族全員が減らすと

年間 二酸化炭素：約88kgの削減
ガス使用量：約37m³の削減
水道使用量：約8m³の節約
光熱水費：約9,600円の節約

風呂の残り湯で洗濯

年間 二酸化炭素：約17kgの削減
電気使用量：約15kWhの削減
水道使用量：約22m³の削減
光熱水費：約3,900円の節約

エアコンを省エネ型にすると

年間 二酸化炭素：約52kgの削減
電気使用量：約150kWhの削減
電気代：約3,300円の節約

冷蔵庫を省エネ型にすると

年間 二酸化炭素：約33kgの削減
電気使用量：約95kWhの削減
電気代：約2,100円の節約

窓ガラスを複層ガラスにしたり天井や壁に断熱材を使用すると

年間 二酸化炭素：約540kgの削減
灯油使用量：約200ℓの削減
灯油代：約10,000円の節約

太陽熱温水器を設置すると

年間 二酸化炭素：約380kgの削減
電気使用量：約1,100kWhの削減
電気代：約25,000円の節約

エコドライブは燃料の節約

荷物の積み降ろしや人待ちなどの駐車中に、エンジンを止める(アイドリングストップ)

1日10分間、アイドリングストップすると

年間 二酸化炭素：約120kgの削減
ガソリン使用量：約50ℓの削減
ガソリン代：約5,300円の節約

タイヤの空気圧を適正にするなど、定期的な点検整備を行う

タイヤの空気圧を適正値に保って運転すると

年間 二酸化炭素：約54kgの削減
ガソリン使用量：約23ℓの削減
ガソリン代：約2,400円の節約

急発進、急加速、空ぶかしをやめる

急発進、急加速を1日10回止めると

年間 二酸化炭素：約105kgの削減
ガソリン使用量：約44ℓの削減
ガソリン代：約4,600円の節約



エコオフィスはエネルギー消費量の節約

冷暖房温度を過度に設定しない

冷房温度28℃、暖房温度20℃に設定すると

年間 二酸化炭素：約1,110kgの削減
エネルギー：約17%の省エネ
電気代：約70,000円の節約

昼休みには消灯する

点灯率を30%減らすと

年間 二酸化炭素：約107kgの削減
エネルギー：約2.4%の省エネ
電気代：約7,000円の節約

照明器具を省エネ型に更新する

Hfインバーター照明器具に変えると

年間 二酸化炭素：約1,297kgの削減
エネルギー：約29%の省エネ
電気代：約80,000円の節約

温暖化ストップ県民運動の推進

温室効果ガスの排出を抑制するためには、県民、事業者が、それぞれの日常生活や事業活動において、意識を持って身近な省エネ活動などの取組みを実行することが必要です。

このため、日常生活（Life）、事業活動（Office）、自動車利用（Vehicle）、環境教育（Education）の分野等において、地球温暖化防止活動の輪を広げるため、「LOVE・アース・ふくい」（温暖化ストップ県民運動）を推進します。

「LOVE・アース・ふくい」

団体、県民、事業者が、
それぞれ地球温暖化防止につながる行動を宣言

「LOVE・アース・ふくい」への参加登録

【推進宣言】

●LOVE・アース・ふくい推進宣言（関係団体）

- ・消費者団体、商工団体、運輸団体、林業団体、環境教育関係団体、エネルギー関係団体などが、「LOVE・アース・ふくい」への会員の参加登録数等を宣言

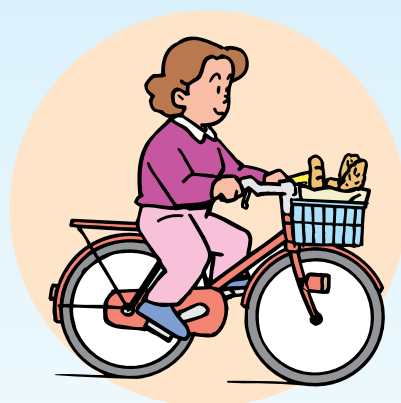
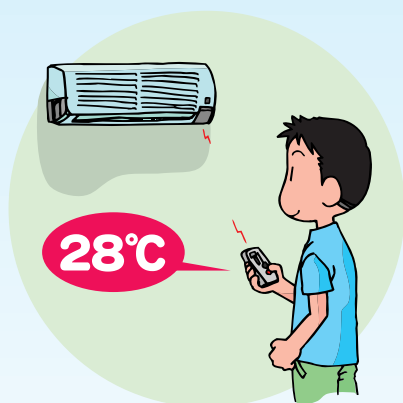
【実行宣言】

●わが家のエコ宣言（県民）、わが社のエコ宣言（事業者）

- ・県民、事業者が、節電、節水、省エネ機器の導入、自転車利用など地球温暖化防止の身近な行動を宣言

活動の普及に向けて

- ・地域メディア等を活用しながら活動内容や活動成果等を情報発信
- ・宣言家庭数・事業所数や取組効果等を取りまとめて公表



「LOVE・アース・ふくい」のネットワーク概念図



※福井県では、次の団体を指定しています。

名 称: 特定非営利活動法人エコプランふくい
 所在地: 福井市宝永3丁目3-1 生協会館3F
 電 話: 0776-30-0092 E-mail: npo@ecoplanf.com

地球温暖化防止に関する情報

地球温暖化防止に関する情報を提供しているホームページには、以下のものがあります。

- 福井県 <http://ondanka.erc.pref.fukui.jp/index.html>
- 福井県地球温暖化防止活動推進センター <http://stopondanka.jp/>
- 環境省 <http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>
- 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>
- (財) 環境情報普及センター <http://www.eic.or.jp/index.html>
- (財) 省エネルギーセンター <http://www.eccj.or.jp/>

福井県安全環境部環境政策課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号
 TEL 0776-20-0302(直通)



健康長寿な福井です。

R100

古紙パルプ配給率100%
 白色度70%再生紙を使用
 しています。